

予防接種を避けたい期間の目安と考え方（2017）

〔年齢や接種の必要性によって、さらに医師の考え方によっても多少、異なります。〕

疾患名	本人が罹患した場合	接触した場合〔2次感染〕	本人 ：その家族や友人
麻疹〔麻しん〕	診断日から4～5週間ほど 〔不活化は4週、生は5週〕	3日以内ならすぐ接種 1週間以内にグロブリンも可	学童以上は抗体検査〔PA法・EIA/G法・NT法〕して、陰性ならすぐ接種 〔PA:256倍未満、EIA/G:8.0未満、NT:4倍未満〕
風疹〔三日ばしか〕	診断日から4週間ほど	間に合わない 2週間後の発症時の行動に注意	学童以上は抗体検査〔HI法〕して、陰性(16倍未満)ならすぐ接種 特に妊婦は注意 妊娠希望女性は32倍以上必要で濃厚接触を避ける
おたふくかぜ 〔ムンプス、流行性耳下腺炎〕	診断日から4週間ほど	間に合わない 2週間後の発症時の行動に注意	学童以上は抗体検査〔EIA/G法〕して、陰性〔6.0未満〕ならすぐ接種 せめて5.0以上あれば重症化は避けられるかも
水痘〔水ぼうそう〕	診断日から4週間ほど	3日以内ならすぐ接種 1週間後から5日間の予防内服も可	学童以上は抗体検査〔EIA/G法・IAHA法〕して、陰性ならすぐ接種 〔EIA/IgG:4.0未満、IAHA:4倍未満(乳幼児は2倍未満)〕
伝染性紅斑 〔りんご病〕	診断日から2週間ほど	診断日以降の接触は罹患しない 直前の接触は1～2週間観察	症状発現直前には感染力がある。 特に心配ないが、妊婦は接触を避ける
手足口病	診断日から2週間ほど	診断日以降の感染力は弱い 直前の接触は1～2週間観察	症状発現直前には感染力がある
突発性発疹	診断日から2週間ほど	罹患しない	罹患しない
流行性角結膜炎	診断日から1週間ほど 症状が消失するまで	よく手洗いをする 2～3日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いをする
咽頭結膜熱	診断日から1週間ほど 症状が消失するまで	よく手洗いやうがいをする 2～3日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いやうがいをする
ヘルパンギーナ	診断日から1週間ほど 症状が消失するまで	診断日以降の感染力は弱い 2～3日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いやうがいをする
乳児嘔吐下痢症 〔ロタ、ノロ、その他〕	診断日から1週間ほど〔ロタは4週間〕 症状が消失するまで	よく手洗いをする 2～3日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いをする
インフルエンザ	解熱後1週間ほど	よく手洗いをする 人込みを避ける 2～3日経過を見て発症がなければ可	よく手洗いをする 人込みを避ける うがいは無効 マスクは咳エチケットと喉の潤いのため
マイコプラズマ肺炎	症状が消失するまで	特に妨げない	特に妨げない
百日咳	症状が消失するまで	DPT3回まで未接種の乳児は予防内服 特に妨げない	DPTを確認して対応する 婚活・妊活計画にDPTを追加 S44年以降の生まれはの成人は、DPTで1回追加する
溶連菌感染症	症状が消失するまで	特に妨げない	特に妨げない
熱性痙攣	初回発作は1ヶ月程度、遅れないこと 発熱の原因の症状が軽快すれば接種可 高熱性疾患〔麻疹・ムンプス・水痘・インフルエンザ〕は罹患前に早々に接種する	特に妨げない 家族歴を考慮して、罹患前には接種する	特に妨げない 家族歴を考慮して、罹患前には接種する
グロブリン大量療法 〔川崎病〕 〔血小板減少性紫斑病〕	麻疹は12ヶ月以上〔せめて6ヶ月以上〕 その他の生は3～6ヶ月以上 BCG、ロタ、不活化は影響しない 経過観察に3ヶ月間は必要	罹患しない	罹患しない